開催地名：京都府大山崎町	
開催日時	令和 5 年 2 月 12 日（日）　13：30　～　14：50
開催場所	大山崎町立中央公民館
語り部	山田　修生　（宮城県仙台市）
参加者	自主防災組織関係者、自治会関係者、町内在住の方　23 名
開催経緯	令和 2 年度はコロナ禍により中止となったものの、令和元年度より大山崎町の地域防災の要として「自助」「共助」の重要性を地域全体に広め、防災活動の活性化に寄与する人材を育成することを目的とする「大山崎町防災伝道師養成講座」を実施しているところであり、その講義の一環として、災害を経験された自主防災組織や自治会の方々の経験や教訓等をお聞きすることができれば、より実りのある講義となる。また、令和元年度に町内の自主防災組織相互の連携を強化することを目的に「大山崎町自主防災組織連絡協議会」が設立されたが、活動や事業に関するノウハウが不足している。加えて、高齢化に伴う若年層への災害伝承が課題となっている。
内容	（１）はじめに 45 年前ほど前の昭和 53 年 6 月に、死者 28 人、負傷者 11,000 人、家屋損壊 13 万戸を記録した宮城県沖地震が発生した。この地震がターニングポイントとなって、宮城県は地震防災に本格的に取り組み始めたと言える。 2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分に、水深 6,500 メートルにある縦 500 キロ、横 200 キロの広さの海底プレートが崩れたことにより発生した大地震は、マグニチュード 9.0 を記録した。西暦 869 年にこの大地震に匹敵する規模の貞観地震が東北地方で発生しているため、1,000 年に 1 度の規模の災害と言われている。 2011 年 3 月 11 日の午後、突然、地下からすごい勢いで突き上げる感じの揺れを感じた。そして縦揺れ、横揺れ、今度はななめ揺れと、どうしたら良いか分からないような揺れが長く続いた。地震発生時は、全く身動きがとれず、両手両足で何かにつかまっていないと立っていられない程であった。各地で地震に関する講演や研修を行ってきた身であるが、頭が真っ白になり、どのように対処すればよいか全く分からなかった。地下の排水管からは水が噴出し、電信柱などは倒壊して火花を散らしていた。町内会や自主防災組織などの団体で避難訓練を行ってきたが、家族・近隣住民など小単位で避難せざるを得なかった。津波が来ることを想定し、とにかく海岸からできる限り離れるように避難した。 現在各地で行われている避難訓練は、通常土・日・祝日を中心に行われている。しかし東日本大震災は、勤労者、特に男性がほとんどいない平日の昼間という時間帯に発生した。高齢者や主婦しかいない状況下での避難訓練も想定していただくとともに、自主防災会や役員への女性の登用についても、今後は推進していく必要があろう。 地震が収まった後、私は避難所の運営に携わった。すでに訓練等で担当が決まっているところも多いだろうが、名簿班、総務班、情報広報班、食料物資班、救護衛生班などに分かれて活動することになる。一番重要になるのはトイレの問題である。避難所は人数が多く、トイレが必ず詰まる。組み立て式のトイレもすぐいっぱいになる。これは今後の重要課題として意識しておいてほしい。

	また、避難スペースの周知徹底も重要である。指定避難所に行った場合、どこの部屋に行けば良いか皆悩む。体育館だと思われることが多いが、水害の場合１階の高さでは水没する恐れがある。必ず２階以上に避難するように周知したい。 （２）東日本大震災から学んだこと 東日本大震災は、災害対策を決して怠っていたわけではないが、これまでの取り組みが無力だと感じてしまう程の規模であった。いつどこで起こるかわからない自然災害を予測することは難しい。従って、自然災害と共生していくことが、被害を最小限にする手立てとなる。自分の居住する地域で起こった土砂崩れや河川の氾濫、水害、地震についての情報は、必ず把握していただきたい。 また、各地域で、災害時に当面の避難生活を行なう避難所として、指定避難所が設定されている。指定避難所となっている学校の近隣に居住されている方々については、平常時の防災訓練等で、学校との連携を密にしていただきたいと思う。そうすることで災害時にも連携がスムーズに行なえるはずだ。 （３）まとめとして 公助が機能するまでの 72 時間、自助と共助で乗り切る必要がある。３日間は役所の援助を頼らずにしのげるよう、必要な備蓄や準備に取り組んでいただき、まずは自分の命を、そして家族の命を優先に考え、行動していただきたい。 経験は決して自分を裏切らず、役に立ってくれるものである。防災訓練、避難訓練等、役に立たないと思わずに、いざとなったらこれは必ず役に立つと考えて参加してほしい。避けられない災害と共生することを意識して、備えは怠らずに生活していただきたいと思う。
開催地より	本日の講演を受けて当町では、地震など災害に直面した際の様々な課題や緊張感等を学ぶことができたため、今後「自助」「共助」の重要性を出前講座等で再度地域に伝え、大山崎町の防災力向上に努めていきたい。